

昨年12月1日時点で、iCONMには18ヶ国から41名(34.8%)の外国籍研究者が在籍しています。さらには、大中小様々な規模の企業がラボ単位あるいはベンチ単位で施設を利用し、また国内外の様々なアカデミアとも共同研究を行うなど、iCONMは非常に多様性の高い組織です。物事を多面的に捉えることができる「多様性の高い組織」は強いと一般的に言われますが、それは、ひとえにその多様性をどう活かせるかによります。



広く開けた景色を眺めながら対話が進むiCONMのマグネットエリア

iCONMの各フロア中央部には「マグネットエリア」と呼ぶ交流スペースがあり、多摩川越しに羽田空港を臨む明媚な景色を眺めながら研究者がアイデアを描き、あるいは煮詰める場所として使用されています。なぜ「マグネット」なのか？磁石は「引き寄せるもの」として例えられますが、「反発するもの」でもあります。むしろ、異文化

交流の第一歩は反発(コンフリクト)から始まるはずで、この反発エネルギーこそがイノベーションを生み出す原動力だと私たちは考えています。それを面倒だからと避けてしまうとA+BがAかBにしかならず、新たなものは生まれません。

iCONMでは、月に1回、外国籍研究者がオンラインで出身国のお国自慢をする異文化交流イベントがあります\*。コロナ禍で海外旅行を自粛せざるをえなかったときに始めたものですが、そ

れぞれの国の歴史や名所・旧跡、料理、風習を学べるとあって、皆楽しみにしています。このようなイベントを介してお互いを知り、会話の機会を増やすことがA+Bの化学反応を進め、どちらとも異なるプロダクトCを創出します。

さらには、高校生との交流会などでも積極的に外国籍研究者が加わり、日本人スタッフと合同で企画立案から実施までを担います。このような共同作業が、多様性のマネジメントに役立ちiCONMの組織強化に繋がっていることが、いくつかの記事で紹介されています\*\*。2月8日の市民公開講座「川崎の南端は、世界の最先端ナノです」では、そんなiCONMの取組みについても紹介します。\*\*\*

\*例えば、<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/news20241125.html>

\*\*例えば、<https://note.com/annahal/n/n482e2fef5076>

\*\*\*産業情報かわさき2025年1月号 参照



DNAの電気泳動について、外国籍研究者から指導を受ける高校1年生

<お問合せ先>

**iCONM**  
Innovation Center of NanoMedicine

公益財団法人 川崎市産業振興財団

ナノ医療イノベーションセンター

TEL : 044-589-5700

iCONM

検索